

岡垣射爆撃場の歴史⑤

―射爆撃訓練による事故―

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

【模擬弾の落下事故】

1956(昭和31)年12月、山田小学校の講堂から数メートルの地点に、模擬弾が落下した。幸い児童に被害はなかった。

1967(昭和42)年1月、糠塚のYさんの玄関先に模擬弾が落下した。幸い人命に被害はなかった。Yさん宅の前後には民家があったので、落下場所がずれていたら、被害が出たかも知れない。

Yさん宅の前は、筆者の家だった。私は当日、勤務先で宿直をしていたので、落下場所を翌日見た。そこは、修復されていた。

Yさんの孫のM君(当時、山田小6年)が、その事故をもとにして書いた作文「緑の松原を返してほしい」が、文集『子ども日本風土記』(『日本作文の会』編集、福岡版)に掲載された。その一部を抜粋する。

僕が住んでいる所は、海に近い農村だ。空気もすんでいるし、自然もこわされてなく、平和なところだ。

しかし、1カ所だけ、とてもこわい所がある。それは射爆撃場だ。

いつからこうなったか、はっきりは知らない。

ジェット機が飛び始めると、聞こえるのはジェット機の音だけだ。テレビの音は打ち消され、家の人との会話ができない。

幼稚園に行っているころ、家の玄関から1mくらいの所に、爆弾が落ち、煙が出ていた。区長さんに届けると、けいさつ所や役場、新聞社の人たちが、調べに来た。最後に自衛隊がやってきて、爆弾を持って帰った。もし、家に落ちていたら大変なことになっただろう。祖父の話によれば、田や畑にも

爆弾が落ちて、農作業も安心してできない。にわとりがたまごをあまり産まなくなったそうだ。僕たちが、射爆撃のぎせいになることはない。緑の松原や青い海を返してほしい。

1972(昭和47)年9月、射爆撃場への進入コースから少し離れた竹藪(東黒山)から、長さ約1メートルの模擬弾が見つかった。米軍のもので、数年前に落下していた



▲筆者が射爆撃場跡地で拾得した模擬弾

らしい。近くには民家もあった。

【松原内の火災】

射爆直後の模擬弾や銃弾が松原内に落下し、高温のため、火災が17件起きた。3件を紹介する。

①米軍機から模擬弾が落下し、1959(昭和34)年2月、松原が16ヘクタール消失した。

②1965(昭和40)年5月の火災では、米軍が事故発生時の報知義務を怠ったため、地元消防団の出動が遅れ、15ヘクタール消失した。

③1976(昭和51)年、自衛隊機(築上郡築城町の築城基地からのF86)から模擬弾の落下で火災が起き、松が約1万6千本消失した。

【米軍機の墜落事故】

射爆撃訓練で、米軍機の墜落事故が3件起きた。

①1954(昭和29)年12月、宗像郡との境の湯川沖の海上に墜落した。

②1959(昭和34)年8月、汐入川沖の海上に墜落した。

③1961(昭和36)年3月、県立遠賀病院裏約200メートルの松原内に墜落した。大惨事になるところだった。

つづく

【訂正とおわび】 広報おかがき 2月号に掲載した新岡垣風土記の内容に誤りがありました。訂正しておわびします。

■3段目2行目 正:重傷 誤:重症